

「(仮称)和歌山印南日高川風力発電事業に係る計画段階環境配慮書」

ご意見記入用紙

「(仮称)和歌山印南日高川風力発電事業に係る計画段階環境配慮書」について、環境の保全の見地からのご意見をお持ちの方は、意見書に必要事項をご記入のうえ、下記の住所宛に郵便にてお送りいただくか、電子メールに添付し、下記メールアドレス宛にお送りください。また、縦覧期間中は縦覧場所に備え付けております意見書箱への投函によりご提出いただけます。

○意見書の郵送先 〒150-0043 東京都渋谷区道玄坂一丁目21番1号 渋谷ソラスタ
東急不動産株式会社
戦略事業ユニット インフラ・インダストリー事業本部
再生可能エネルギー第一部 陸上風力開発グループ
環境アセスメント担当 宛

○意見書の電子メール送付先 TLC_Assessment@tokyu-land.co.jp

○意見書の提出期限 令和4年11月18日(金) [当日消印有効]

意見書

令和4年 11月 16日

項目	ご記入欄
お名前 (法人その他の団体にあつては、 法人名・団体名、代表者の氏名)	日本野鳥の会和歌山県支部 支部長 中川守
ご住所 (法人その他の団体にあつては、 主たる事務所の所在地)	〒644-0022 御坊市名田町上野 1465
お名前 (法人その他の団体にあつては、 法人名・団体名、代表者の氏名)	公益財団法人日本野鳥の会 理事長 遠藤孝一
ご住所 (法人その他の団体にあつては、 主たる事務所の所在地)	〒141-0031 東京都品川区西五反田 3-9-23 丸和ビル
配慮書についての環境の 保全の見地からのご意見 (日本語により意見の理由を含め て記載してください。)	<p>これまでに事業実施想定区域(以下、計画地という)での鳥類調査は行われていないが、近接する「大滝川鳥獣保護区」の調査では、クマタカ(環境省レッドリスト絶滅危惧ⅠB類)やサシバ(環境省レッドリスト絶滅危惧Ⅱ類)の生息が確認されている。また、近接する「切目川ダム」建設に伴う環境影響調査では、サシバやオオタカ(環境省レッドリスト準絶滅危惧)の繁殖が確認されており、尾根付近でクマタカの生息も確認されている。計画地はこれに続く尾根であり、クマタカが密に生息していると考えられ、サシバも繁殖していると考えられる。</p> <p>また、この尾根の延長線の少し北に位置する「日の岬」では、多くのタカ類の渡りが観察されており、計画地付近もタカ類の渡り経路となっている可能性が高い。</p> <p>今回の計画については、クマタカの繁殖に大きな影響があると予想されること、タカ類の渡りに影響がある可能性があることなどから、「計画の中止」を求める。(2枚目へ続く)</p>

【備考】

- 意見書：氏名及び住所(法人その他の団体にあつてはその名称、代表者の氏名及び主たる事務所の所在地)のご記入願います。なお、1枚に記載しきれない場合は、複数枚ご使用ください。その際は、意見書右上の(No.)にページをふり、2枚目以降にも氏名及び住所をご記入願います。
- その他：弊社では個人情報保護の重要性を十分認識し、ご記入頂いた個人情報は適正に取り扱うこととしております。なお、ご記入いただいた意見内容に限っては公表する可能性がありますので、予めご了承ください。

項 目	ご 記 入 欄
お 名 前 (法人その他の団体にあつては、 法人名・団体名、代表者の氏名)	日本野鳥の会和歌山県支部 支部長 中川守
ご 住 所 (法人その他の団体にあつては、 主たる事務所の所在地)	〒 644-0022 御坊市名田町上野 1465
お 名 前 (法人その他の団体にあつては、 法人名・団体名、代表者の氏名)	公益財団法人日本野鳥の会 理事長 遠藤孝一
ご 住 所 (法人その他の団体にあつては、 主たる事務所の所在地)	〒141-0031 東京都品川区西五反田 3-9-23 丸和ビル
配慮書についての環境の 保全の見地からのご意見 (日本語により意見の理由を含め て記載してください。)	<p>(続き)</p> <p>なお、影響予測評価のための調査を行う場合、次の点を配慮すべきである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ クマタカの繁殖状況について、県内の多くの地域では隔年で繁殖する傾向が確認されているので、2 営巣期の調査を行うとなれば、3～4 年の調査が必要である。 ・ クマタカへの影響評価を、改変率だけで行うべきではない。隣接した既存の風力発電施設（以下、風車という）のモニタリング調査（事前・建設中・運転期間中）のデータを手に入れ、風車の建設によりどれだけの影響があったのかを評価することが必要である。事後データが得られないのであれば、独自に調査することを求める。 ・ タカ類の渡りの状況は気象条件によって大きく変化するので、数日間という短期間の調査ではなく、1 週間以上の継続した調査を、タカの種類に合わせて、数回実施すべきである。その際、タカ類の渡りコースや高さを記録するだけでなく、既存の風車によってタカ類の渡りがどのように影響を受けているかを評価できる調査を行うべきである。 <p style="text-align: right;">以上</p>